

第87期  
事業報告書

令和 2 年4月 1 日から  
令和 3 年3月31日まで



事業を通じて持続可能な社会に  
最大限貢献することにより、  
長期的な成長と企業価値の  
一層の増大を目指す。

株主、投資家の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、  
厚く御礼申し上げます。

ここに令和3年3月期の事業の概況につきまして、ご報告  
申し上げます。

代表取締役社長 **八木誠一郎**

**Q** 令和3年3月期のフクビ化学は、  
どのような1年でしたか？

**A** 令和3年3月期の国内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況が続きました。政府による大規模な経済対策があったものの、依然、回復のペースは力強さに欠け、先行きも不透明な状況にあります。

海外に目を向けると、経済正常化に向けた動きが出始めている一方で、一部の国では感染再拡大の兆候が見られるなど、まだ予断を許さない状況が続いています。

今後、ワクチンの普及や感染対策を講じながら経済活動のレベルを段階的に引き上げることで、景気も持ち直しに向かうことが期待されますが、毒性や感染力の強い変異株の流行状況によっては、再度の自粛要請などによる経済活動への影響が懸念され、当面注視が必要と思われます。

当社の主要マーケットである住宅業界におきましては、一昨年の消費増税による住宅取得マインドの低下や、新型コロナウイルス感染拡大による雇用・所得環境の悪化により需要が冷え込んでおり、その結果、令和2年度の新設住宅着工戸数は、戸数812千戸（前年比8.1%減）、床面積66,299千㎡（同9.3%減）となりました。



## 中期経営計画の進捗状況について教えてください。



昨年度よりスタートしました第6次中期経営計画「FUKUVI NEXT」(2020年度～2022年度)では、下記の3つの基本方針に則り具体的施策を実践しています。

### ①成長分野への積極展開

成長分野へは戦略的に経営資源を配分して取り組んでいます。特に断熱材の分野では「住宅の脱炭素化」をテーマとして訴求力を高めるとともに、協働企業とのアライアンス構築やフルプレカット拠点を稼働させるなどして、市場投入に注力してきました。また、海外現地法人では、高付加価値商品への切り替えを加速した結果、

### 全国新設住宅着工戸数の推移

(単位:戸数)



(出典:国土交通省)

グループの収益に大きく貢献する形となりました。ASEANエリアでは、コロナ禍による入出国制限等で遅延を余儀なくされていた、建材ビジネス確立に向けたマーケティング活動が始動しており、また、フクビベトナムにおきましては、営業黒字化を果たしております。

### ②収益構造の改革推進による利益の創造

バリューチェーンを通じて顧客価値を最大化すべく原価低減に注力しているほか、成長分野へ経営資源を投入し、事業ポートフォリオの再構築に着手しています。また、IoTやAIによる見える化や、ロボット技術や自動検査装置による省人化、自動化を更に推し進め、受注競争力と生産性の向上に努めています。

### ③挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

社員の挑戦を後押しする人材育成・人事制度、社内組織体制の強化を進めているほか、長期的な視点で将来につながる社会のニーズを満たす経営と事業展開を図り、社会的価値の創造による持続的な企業価値の向上に挑戦しています。



## 今後の対処すべき課題について教えてください。



新型コロナウイルス感染拡大を機に人々の生活様式は一変し、当社を取り巻く環境も大きく変化しました。そのような変化のなかで、自然環境や社会へ配慮した企業活動がますます重要になっており、フクビグループの事業を通じて持続可能な社会へ最大限貢献することにより、長期的な発展を目指します。

しかしながら、長期的な成長と企業価値の一層の増大を

# トップインタビュー

実現していくには、以下のような解決すべき課題があると認識しております。

## ① ESGを経営の中核に据えた事業運営への転換

企業の社会的責任がますます重くなるなかで、今後もサステナブルな企業であり続けるため、当社は、これまで以上にESGを意識した取り組みを進めてまいります。企業理念「企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する」に立脚した事業活動を具現化することによって、企業としての存在価値を高め、いくことを目指します。それら取り組みを具体的に推進、強化するために、全社横断でSDGsの推進組織を設置しており、SDGsへの取り組みを通じてグループ全体の意識を高め様々な施策を展開していきます。

## ② 中長期の成長モデル構築に向けた取り組み

10年後を見据えた開発・事業テーマを選定し、組織的・計画的に経営資源を配分しイノベーションにつなげていきます。テーマの洗い出し、選定から、現状の課題を浮かび上げさせ、出口である事業化までのあるべき運営・組織体制を早期に構築し、将来の経営資源になり得るビジネスモデル、製品、サービスの創出を目指します。

## ③ 成長するための事業戦略立案と推進

中期経営計画を実現すべく、各事業部門が強化・成長のシナリオを描けるよう、事業ポートフォリオの再構築を通じ必要な施策を強力に推進していきます。成長性の高い既存事業や海外展開、製品開発等に経営資源を重点配分するとともに、M&Aによる事業領域拡大をグループ全体の成長につなげてまいります。また、収益性改善や、キャッシュ・フローの確保、資産効率等の重要指標を念頭に置いた戦略を展開してまいります。

## ④ 持続的な成長を支える体制整備

持続的成長を支える体制の整備として、事業本部体制への移行を完了しました。その他、DX推進、リスクマネ

ジメント等の強化を推進してまいります。事業部制導入により責任の明確化を図るとともに、市場の変化への対応力を高め、BCMの観点からサプライチェーンの最適化を図ってまいります。前述のテーマを推進する上での共通テーマとしてDXがありますが、今後予定されているERP導入は重要なターニングポイントとなるものであり、順次、環境整備をしてまいります。リスクマネジメントの強化としては、自然災害、パンデミック、地政学リスク等に対するBCP対応やコンプライアンスリスク、事業リスク他様々なリスクに関して機能するよう、体制の整備・深化を図ります。

## Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

A 当グループが主要マーケットとする住宅関連業界では、少子高齢化が進むなか、引き続き世帯数や世帯当たりの平均人数の減少に起因した戸建て住宅や賃貸住宅の需要減が予想されます。また、新型コロナウイルス感染拡大がもたらした生活様式の変化により、住まいの分野においては、性能や機能の高度化・多様化などのニーズが従来にも増して変化していくものと考えます。

このようななか、当社は100年企業に向けた強固な経営基盤を構築すべく、第6次中期経営計画で掲げた3つの基本方針「成長分野への積極展開」「収益構造の改革推進による利益の創造」「挑戦と変革を実現する経営基盤の確立」を実現すべく、事業別の戦略を明確にして技術開発を進めることはもとより、企業価値向上のためのポートフォリオ再構築を一層のスピード感をもって推進してまいります。

今後も中長期を見据えた計画の着実な実行により株主や投資家の皆さまのご期待に応える企業へと成長を果たす所存ですので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 令和2年11月～令和3年5月の 主なTOPICS

### 地域の自治会との合同防災訓練を実施しました

令和2年  
11月25日

11月25日(水)15回目となる本社・本社工場の防災訓練を実施しました。例年5月20日のフクビ防災の日に実施していましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となっていました。今回も昨年に引き続き、地域防災連携協定を締結している麻生津地区自治会との合同防災訓練となり、地域住民23名が参加しました。



### 福井県の中学校で出張授業を行いました

令和2年  
12月3日



福井の産業の素晴らしさを伝え、ふるさとに誇りを持ちながらグローバルな視野で新分野に挑戦する人材を育てることを目的とした福井県立高志<sup>こし</sup>中学校の教育プログラム「高志学<sup>こしがく</sup>」の出張授業を行いました。

授業では、フクビは何を作っている会社なのか、製品はどこに使われているかをイラストを交えつつ紹介。押出成形やプラスッドなどの技術・製品を、実際にサンプルを見せながら説明しました。後半では当社のSDGs取り組みにも理解を深めていただきました。今後も地域貢献活動の一環として、このような活動に積極的に取り組んでまいります。

### 「コンディションマスク」「コミュニケーションマスク」を発売しました

令和2年  
12月10日

肌荒れや息苦しさを防ぎ、快適で健康的な暮らしに貢献する「コンディションマスク」と、口の動きや表情を相手に伝えることができる透明な「コミュニケーションマスク」を開発し、令和2年12月より販売を開始しました。フクビグループSDGs宣言の基本姿勢「技術と提案力で安心・安全・快適な暮らしをクリエイトする」に基づく具体的な取り組みとして、新型コロナウイルスの影響で長時間の着用が求められるマスクが抱える課題を解決するため、新しいプラスチックフィルム製のマスクを開発しました。



(左)コンディションマスク、(右)コミュニケーションマスク

## 令和2年11月～令和3年5月の主なTOPICS

### 「コミュニケーションマスク」や「ハーツラスAR使用フェイスシールド」を、 「福井県」と「えちぜん鉄道」に寄付しました

令和3年  
1月19日、  
2月4日



新型コロナウイルス感染拡大防止に尽力されておられる福井県内の保育従事者や、ひっ迫する医療機関に勤務される医療従事者の方々、また高齢化する地域の足を支える公共交通機関の方々向けとして、昨年12月に発売した「コミュニケーションマスク」と、低反射高透明フィルム「ハーツラスAR」を使用したフェイスシールドを、1月19日に福井県、また2月4日に「えちぜん鉄道」にそれぞれ寄付いたしました。当社は今後もこのような社会貢献活動を推進してまいります。

### フクビ化学・リフォジュール・アリス化学の3社協賛による コンサートを開催しました

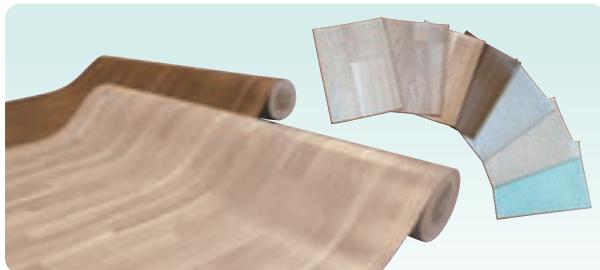
当社グループが進めるSDGs地域貢献活動の一環として、ハーモニーホールで行われた「平原綾香コンサート」に冠協賛いたしました。当日は万全の新型コロナウイルス感染防止策を施したホールにて安全に演奏が行われ、多くの観衆がその魅力に酔いしれました。今後も引き続き地域の皆さまへの貢献活動を展開してまいります。



令和3年  
2月2日

### 抗ウイルス加工技術「ヴィップテック」を施した新床材「フクビリウムFU VPT」を発売しました

令和3年  
2月10日

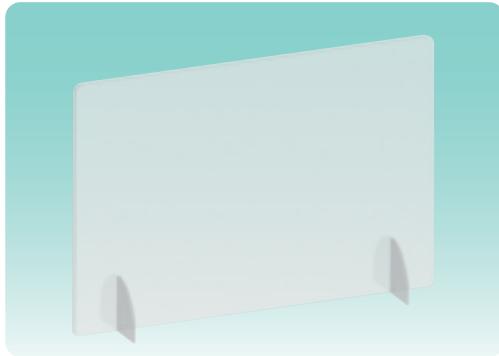


当社の抗ウイルス加工技術「ヴィップテック」の機能性コーティングが、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に対して、抗ウイルス効果がある旨の試験結果が得られました。この抗ウイルス加工技術の機能性コーティングを展開した新商品「フクビリウムFU VPT」は、抗ウイルス性だけでなく、抗菌・消臭・防汚性も有しており、コロナ禍において高まる抗ウイルス・抗菌のニーズに応える機能性床材として新発売しました。



## 「ハーツラスAR使用飛沫防止パネル」オンラインストアを開設しました

令和3年  
4月1日



当社は、反射防止機能付きアクリルパネル（ハーツラスAR）のオンラインストアを開設し、ネット販売を開始いたしました。新型コロナウイルス感染対策としてアクリルパネルの設置が推奨されていますが、一般のパネルは光の反射が多く、映り込みによるストレスや目の負担が大きいたことが課題となっていました。当社の反射防止機能付きアクリルパネル（ハーツラスAR）は、光の反射を大幅に削減することができ、安心安全かつ快適な空間を提供いたします。

## 東日本大震災義援金に対する感謝状を頂きました

令和3年  
4月15日

当社は東日本大震災以降、継続して東北三県（福島県・宮城県・岩手県）へ義援金を寄付してきましたが、今年4月に福島県よりこれまでの支援に対する感謝状を頂きました。今後も当社グループの事業活動を通じて、被災地の復興に貢献してまいります。



## フクビグループの進めるSDGsの取り組みについて公表しました

令和3年  
5月12日

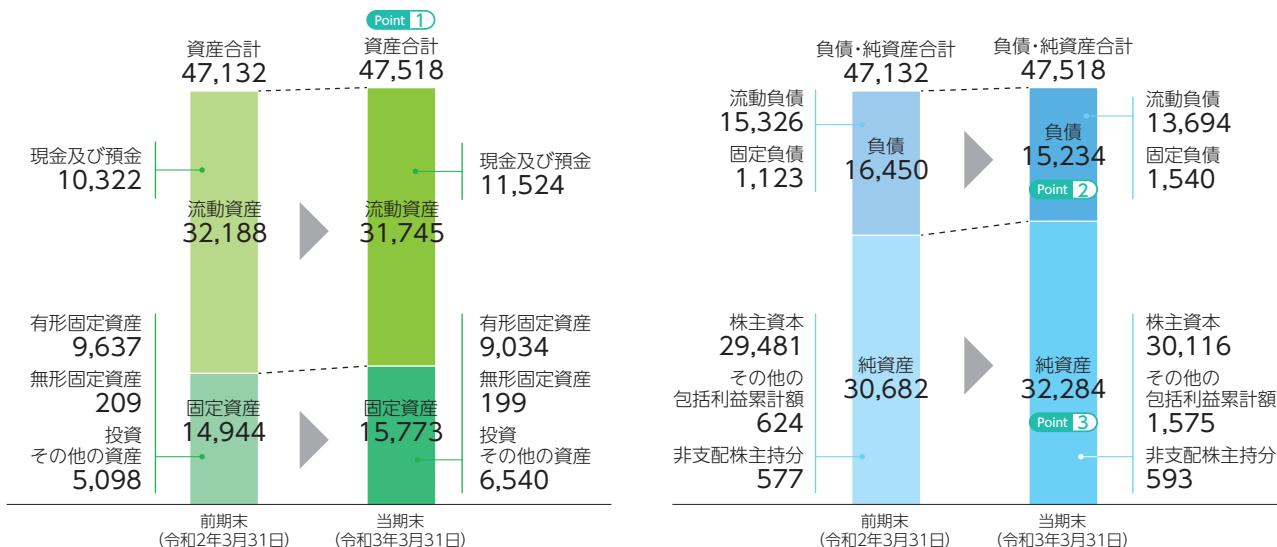
当社グループは昨年11月にSDGs宣言を行い、SDGsに取り組んでいくことを公表しましたが、このたび具体的な数値目標を新たに公表いたしました。詳細については当社ホームページにて掲載しております。今後は定期的に進捗と成果を測り、状況を開示してまいります。



フクビグループの統一SDGsロゴマークです（社内公募で決定）

# 連結財務諸表の概要

## [資産の状況] (百万円)



### 資産の状況

#### Point 1 総資産(=資産合計)

総資産は、前連結会計年度末に比べ3億86百万円(前期末比0.8%)増加し、475億18百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、現金及び預金が12億2百万円増加、また電子記録債権が3億74百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が17億99百万円減少したことなどにより、4億43百万円(同1.4%)の減少となりました。固定資産では、有形固定資産が6億3百万円減少した一方で、投資その他の資産が14億42百万円増加したことなどにより、8億29百万円(同5.5%)の増加となりました。

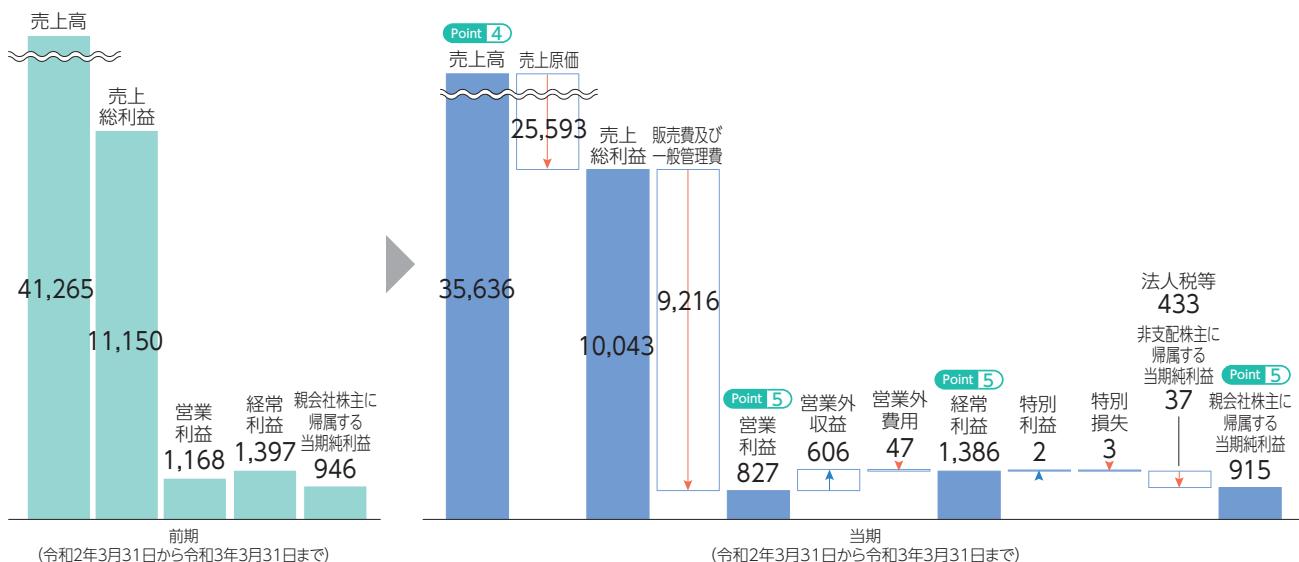
#### Point 2 負債

負債は、前連結会計年度末に比べ12億16百万円(前期末比7.4%)減少し、152億34百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、未払法人税等が1億99百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が16億69百万円減少したことなどにより、16億33百万円(同10.7%)の減少となりました。固定負債では、リース債務が40百万円減少した一方で、繰延税金負債が4億77百万円増加するなど、4億17百万円(同37.1%)の増加となりました。

#### Point 3 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ16億2百万円(前期末比5.2%)増加し、322億84百万円となりました。主な増減要因としては、その他有価証券評価差額金が5億72百万円増加、また退職給付に係る調整累計額が4億4百万円増加しました。株主資本合計は、利益剰余金が6億9百万円増加したことなどにより、301億16百万円となりました。この結果、自己資本は316億91百万円となり、自己資本比率は66.7%となりました。

## [損益の状況] (百万円)



### 損益の状況

#### Point 4 売上高

主力の建築資材事業の売上は、272億30百万円(前期比11.6%減)で、売上高全体の76.4%を占めました。新型コロナウイルス感染症の影響により営業活動の範囲が限定的となったことから、販売面では苦戦を強いられました。

うち外装建材は、46億15百万円(同13.9%減)でした。外装裝飾部材は順調に推移しましたが、換気部材、防水部材が伸び悩みました。

内装建材は、115億39百万円(同9.2%減)でした。内装下地材は善戦しましたが、断熱材・養生材が低調に推移しました。

床関連材は、74億80百万円(同12.7%減)でした。床タイルの売上は前年並みだったものの、乾式遮音二重床システム部材が伸び悩みました。

システム建材は、35億96百万円(同14.1%減)でした。防蟻関連材は善戦しましたが、請負工事付きの木粉入り樹脂建材が東京オリンピック需要の反動減を受け落ち込みました。

産業資材事業の売上は、84億6百万円(同19.5%減)で、売上高全体の23.6%を占めました。

期初より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けましたが、その後もカバーするには至らず全体として伸び悩むこととなりました。

車両関係部材では、国内の移動自粛や渡航制限によるインバウンド需要の低迷により、観光バス関係部材は厳しい状況が続いていますが、精密分野の主力である車載用低反射コーティング製品の受注は下期から回復傾向となり、また、レンズカバーなど非車載用製品も堅調に推移しました。以上により、当連結会計年度の売上高は、356億36百万円と、前期に比べ13.6%の減収となりました。

#### Point 5 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

利益面につきましては、国内外で付加価値の高い品目の売上比率が改善し、加えて原価低減も図れたことから粗利率改善につながりました。経費についても、旅費交通費はじめ、その他支出を抑制するとともに役員報酬等の削減を実施し、加えて営業外収益では雇用調整助成金の受給もあり、営業利益8億27百万円(前期比29.2%減)、経常利益13億86百万円(同0.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益9億15百万円(同3.2%減)となりました。

# 会社の概要

## 会社の概要

(令和3年3月31日現在)

創 立 昭和28年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

## 主要な事業品目

### 建築資材

外 装 建 材

セミックス(窯業系不燃外装材)、左官定木、エコランパー、換気材、スーパーエアテックス(防風透湿シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材

内 装 建 材

バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)、越枠(不燃手すぎ和紙化粧板)

床 関 連 材

クッションフロア、床タイル、フリーフロア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(ブラ束、鋼製束)

システム建材

エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、ブラスッド(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

### 産業資材

樹 脂 サ ッ シ 窓枠、浴室用ドア

産 業 機 器

車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

## 役 員

(令和3年6月16日現在)

代 表 取 締 役 員 八 木 誠 一 郎  
社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 員 采 野 進  
副 社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 員 大 畑 忠  
専 務 執 行 役 員

取 締 役 岩 淵 滋 群栄化学工業株式会社社外取締役

取 締 役 諫 山 滋 三井化学株式会社 常勤監査役

取 締 役 南 保 勝 福井県立大学地域経済研究所所長

取 締 役 執 行 役 員 加 川 潤 一

取 締 役 執 行 役 員 豊 嶋 雅 子

常 勤 監 査 役 川 瀬 慎 一 郎

監 査 役 玉 井 三 千 雄 あおぞら経営税理士法人 代表社員

監 査 役 藪 原 孝 夫 藪原孝夫税理士事務所長

## 顧 問

顧 問 長 瀬 洋 長瀬産業株式会社 代表取締役社長

顧 問 森 克 則 三井物産プラスチック株式会社 代表取締役社長

顧 問 小 田 英 治

# 株式の状況 (令和3年3月31日現在)

## 株式の状況

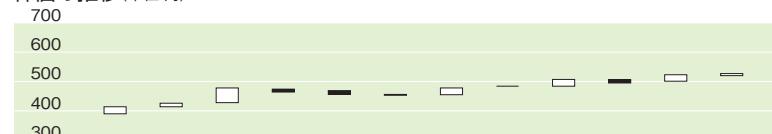
株式の総数	
発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数	20,377,456 株 (自己株式310,969株を除く)
当期末現在の株主数	2,482 名

## 大株主

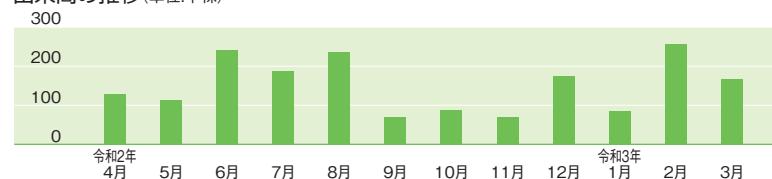
株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)	1,855,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
株式会社福井銀行	710,300
八木誠一郎	679,703
昭和興産株式会社	669,573
株式会社北陸銀行	624,900
蝶理株式会社	600,382
八木信二郎	540,581

## 株価チャート

株価の推移(単位:円)

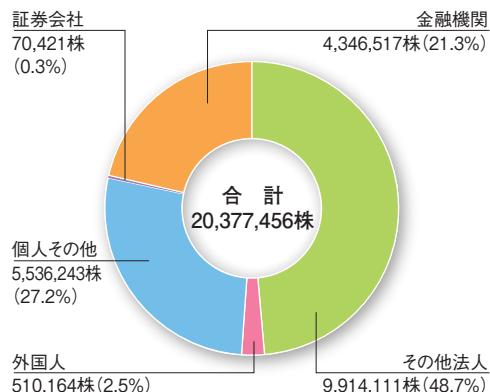


出来高の推移(単位:千株)

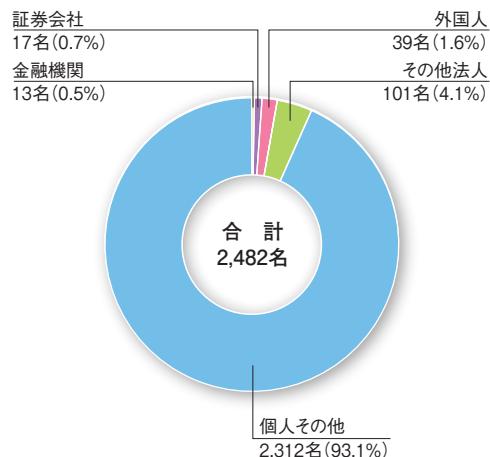


## 株主分布状況

### 〈所有数別〉



### 〈所有者別〉



## 企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

## 中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

## 株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
	※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
	<a href="https://www.fukuvi.co.jp/">https://www.fukuvi.co.jp/</a>
上場証券取引所	東京市場第2部・名古屋市場第2部

単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）

### ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、  
環境に配慮し、植物油インキ  
を使用しております。

